

県下の交通事故 (2月20日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
55年	418件	9人	528人
54年	388件	12人	570人
比較	+7.7%	-25.0%	-7.4%



◇ 第47号 ◇

発行所
甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 37-7827



みんなですすめよう交通安全運動

みんなで守ろう こどもと老人

春の全国交通安全運動 4月6日～15日

新入学児童の事故防止

二輪車の昼間点灯走行も推進

昭和五十五年春の全国交通安全運動は、四月六日から十五日まで十日間、全国一斉に実施されます。本県が定めた運動の重点は、①歩行者、とくに新入学児童を中心としたこどもの交通事故防止 ②自転車の安全利用の促進 ③安全運転管理の充実と安全運転の確保 ④シートベルト着用の促進です。本年の交通事故死者抑止目標九十名以下を達成するよう、県民総ぐるみの運動を展開しましょう。

運転者も同乗者も必ず

シートベルトの着用を

この運動は県民一人ひとりに交通安全思想を普及徹底し、正しい交通ルールの実践を習慣づけることにより交通事故を防止することを目的として行われます。家庭、運転者、歩行者はとくに次のことを守りましょう。

- 新入学児童を中心としたこどもの交通事故防止方法を教えよう。
- 新入学児童に安全な交通方法を教えよう。
- 幼児は必ず手をつなぎ、親は車線側を歩こう。
- 車の前後を横断しないようにしよう。
- 正しい交通ルールとマナーを習慣づけよう。
- 自転車は安全な正しい乗り方をしよう。
- 自分のからだに合った自転車に乗ろう。
- 自転車はつねに点検整備しておこう。
- せまい道から広い道へ出るときは、必ず一度止まろう。
- 自転車に乗るときは、正しい乗り方をしよう。

○家庭における交通安全の話し合いをしよう。

○交通事故は加害者も被害者も不幸です。十分気を付けよう。

○運転するときはスピードはひかえめに、交通ルールを守ろう。

○夜間外出するときは明るい服装か反射材または懐中電灯を持って歩こう。

○シートベルトの着用と二輪車の昼間点灯走行

○こどもや老人を見たら必ず徐行して、安全をたしかめて運転しよう。

○せまい道路や裏通りで

得な運転と損な運転 (6)

東京大学名誉教授 平尾 収

「割り込み方」を研究する必要がある。まず第一に必要なことは、並んで走る車の前に割り込むのではなく、少なからず並んでいる車の後へ割り込むようにすることである。このときに、並進している車にすくくはいていく車が多い。

あわてて車間距離をつめてくるようなときは、その車のまた後へ割り込むことを考へるべきである。

筆者の経験によると、このようなときに割り込ませまいとあわてて車間距離をつめてくるのは、パン型、スポーティ型の車に多いように思う。また、ゴミ取り



新学期の交通対策

みんなでこどもを

春を迎えると、こどもたちが交通事故にあうことが多くなります。これは、暖かくなると戸外での遊びが多くなることや新入学児童が一人立ちで、「歩行者」として、繁雑な交通環境に入るからです。こどもを交通事故から守るため、両親をはじめ、社会全体が正しいルールをこどもたちに教えることが大切です。

◇新入学されるこどもさんへ

一、新入学校、幼稚園などで決められている通学路を一緒に歩き、具体的に正しい安全な通行方法を教えておいてください。

二、服装や履物などは、体に合ったもので、ドライパールの目につきやすい、明るい色のものにしてください。

◇通学をはじいたら

一、出がけに叱らない、忘れ物をさせない、そして遅刻させないことに十分注意しましょう。

二、帰るとき、みちくさをしないよう教えましょう。

こどもの特性を知ろう

こどもは、心身ともに未熟ですから、その特性をよく理解し、きめ細かく教えましょう。

◇ドライバーの皆さんへ

こどもの特性が次のようなものであることを十分に知り安全運転に心がけてください。

一、一つのものに注意が向くと、まわりのものが目に入らなくなる。遊びに夢中になると車に気がつかない。

二、手をあげれば車は必ず止まってくれる、単純に信じている。

三、叱られたりすると、まわりを見ないで歩く。うきうきして、行動が落ちつかなくなる。

安全は作るもの

死亡事故を抑止するためには、どうしても車社会の流れを変えなければならぬ。つまり、より速くより安全へという方向に車社会の流れを大きく転換させなければならぬというものが実現しようとするきざしが見えてきた。全国的には、死亡事故は九年連続し、着実に減少傾向を示すようになり、国民の自覚が徹底し、マナーを身につけ、ルールを守ればさらにこれを定着させ、持続させることが可能のはずである。

▽従来、ともすれば「車が増えるのだから、事故も増えるのが当然、それも仕方ないのだ」という思い込みやそのような敗北主義的なあきらめから脱却して、われわれは、文明の利器を、社会の発展と繁栄に寄与させると同時に、交通事故や交通公害のない、明るく、平穏な社会の実現を期さなければならぬ。

▽交通安全とは、他者によって与えられるものではなく、自ら作り出していくものである。運転者も歩行者も、それぞれの立場から、事故を起こさず、事故に遭わず、安全な通行をすることを真剣に考え、かつそれを実践していくことにより作られていくものである。

▽交通事故を防止するためには、道路や安全施設の整備、規制や指導取り締まりの強化もさることながら、なんといつても、道路を利用する者すべての考え方を育てていくことが肝要である。幸福や健康が肝要共通の願いであり、それが各人によってかなえられていくように、交通安全もまた、すべての人の心構えと努力によって、作られていくものである。



安全のために

●割り込むときの得な運転法

自分が車を線を変更するのにも割り込みしなければならない場面も出てくる。割り込みは「たてまへ」にならない「たてまへ」にならない。現在の都市交通の事情は割り込みをしなければ、交差点で右折も左折も、直進もできないような場面がしばしば起こるのである。このことから、「割り込ませてやる」という走り方が必要になるわけである。そしてそれが割り込ませてやる方が得であるということになるのである。

ところで、割り込みをしなければ走れないのが実情だとすれば、今度は「損をしないう割り込み方」を考えなければならない。

「割り込み方」を研究する必要がある。まず第一に必要なことは、並んで走る車の前に割り込むのではなく、少なからず並んでいる車の後へ割り込むようにすることである。このときに、並進している車にすくくはいていく車が多い。

あわてて車間距離をつめてくるようなときは、その車のまた後へ割り込むことを考へるべきである。

筆者の経験によると、このようなときに割り込ませまいとあわてて車間距離をつめてくるのは、パン型、スポーティ型の車に多いように思う。また、ゴミ取り

第20回交通安全全国国民運動中央大会

ことしこそ死者半減の

目標を達成しよう

全日本交通安全協会と都道府県交通安全協会の主催、総理府、警察庁等の後援による「第20回交通安全全国国民運動中央大会」が、一月二十一日・二十二日の両日にわたり東京で開催されました。

第一日は、日本都市セクターと麹町会館で地域部会、企業部会、婦人部会、子ども部会の四部会が開催され、それぞれの立場から交通安全対策について意見交換が行われましたが、指定発表者として本県から婦人部会に出席した県交安会長の鶴田美枝さん(山梨市)は、「母親の手による交通安全を」と題して母親の研

修と家族会議の推進を訴えました。

山本滋氏に金章
第二日は、日比谷公会堂で、皇太子、同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、全国から二千人が参加して本会議を開き、部会報告、死者半減の宣言採択、表彰が行われ、皇太子殿下からお言葉がありました。

交通安全功労者に対する表彰で、長坂安協会長山本



皇太子・同妃両殿下ご臨席の本会議

皇太子殿下

お言葉

第二回交通安全全国国民運動中央大会が年頭に当たって開かれ、日ごろ交通安全運動に尽力されている皆さんが一堂に会し、交通安全を更に減少させるため心を新たにこの運動を推進しようとするのは誠に意義深いことだと思います。

我が国の交通事故による死者が、昭和四十六年以來連続して減少していることは国民の皆さんの交通安全に対する意識の高まりと関係機関、団体の努力による

宣言

交通死亡事故は、昭和四十六年以來連続九年減少したが、現下のきびしい交通情勢から、予断を許さない状況にある。特に、歩行者、自転車、二輪車、子供、老人の事故の多発は、憂慮にたえない。

われわれは、第二十回交通安全全国国民運動中央大会を開催するにあたり、死者半減の目標を達成するため、運転者をはじめ道路利用者すべての社会的責任の自覚により、次の諸対策を強力に

推進することを誓う。

- 一 歩行者、自転車、特に子供と老人の事故防止
- 二 原動機付自転車、自動二輪車の事故防止
- 三 安全運転の知識・技能とマナーの向上
- 四 企業等における安全運転管理の強化
- 五 シートベルト、ヘルメットなど乗員保護具の着用

右 宣言する。

昭和五十五年一月二十二日
第二十回交通安全全国国民運動中央大会

栄誉章に輝く人びと

山本 滋氏

金章は、安協表彰では最高の栄誉で、本県では五人目の受賞です。

山本さんは現在県安協副会長、長坂安協会長をつとめ、永年交通安全運動に献身的に尽力した功績が認められたものです。



表彰式には八重子夫人も出席し、永野全日交会長から滋氏(高根町)に交通安全功労章(緑十字金章)が授与されました。

本県関係の受賞者は次のとおりです。

ら内助の功をたたえた感謝状を贈られました。



村松 三氏

交通安全功労者として、山本警察庁長官と永野全日交会長連名の表彰状と、交通安全功労章(緑十字金章)を手にした村松さんは「第二十回」ということで皇太子殿下、美智子妃殿下ご臨席の表彰式で感激です」と語っていました。

村松さんは、県安協副

田中正之氏

銀章を受賞した田中さんは、県安協理事、日下部安協会長です。元春日居町長、県町村会長で、昨年十一月には自治功労者として県政功績者表彰を受けています。



雨宮 崇 敬氏

日比谷公会堂で、晴れの銀章を手にした雨宮さんは「身に余る光栄です。これもみなさんの協力のおかげです。これからもこれに酬いるよう努力します。」と受賞のよろこびを語っていました。

雨宮さんは県安協理事、石和安協会長で安協経歴二十八年の実績があります。



- 【緑十字金章】
交通安全功労者 雨宮 崇敬
長坂安協会長 山本 滋
【緑十字銀章】
交通安全功労者 村松 三氏
市川安協会長 村松 三氏
日下部安協会長 田中正之氏
- 石和安協会長 雨宮 崇敬
優良運転者 富士急行(大月)小俣 幸成
同(上野原)久島 朝雄
山梨貸切自動車高橋 英雄
【全日交会長表彰】
交通安全優良団体 南甲府交通安全協会
- 大月市交通安全母の会
交通安全優良企業 清水工機株式会社
交通安全優良学校 須玉町立若神子小学校
優良交通安全協会 南甲府交通安全協会

母親の手による交通安全を

県交安会 鶴田 美枝



家庭や地域における交通安全の推進と、子供と老人の事故防止には、家庭の中にある母親の交通安全に対する知識と指導力が、大きく影響すると思います。そのため私は、交通安全母の会の立立場から、次の三点を訴えます。

第一は、「交通安全母の会の組織の拡充強化」です。一家の中心となる母親が、愛する家族を交通事故から守るために、なにを考へ、なにをなすべきかを自覚し、わが家から交通事故の加害者にもならない、被害者も出さないという心構えが必要で、その母親の役割を、家庭から地域活動にすすめるためには、家庭

の母親たちで組織する交通安全母の会を、すべての地域に広げるよう組織の拡充強化が必要です。

第二は、「指導者の相互の研修」です。現在の車社会の実際は、人と車が共存していかなければなりません。その中において、家庭と地域における大事な交通安全の問題について、意外に無関心のお母さんが多いのにびっくりすることがあります。この一人ひとりのお母さんたちに、私も母の会はいかにして訴え、交通安全意識高揚の輪の中に入ってもらおうか、それには、それぞれの地域に良き指導者を得ることだと思います。良きリーダーに恵れ、リーダーの努力によつて、輪の中に知らず知らずのうちに入ってくるようになりたいのです。そしてリーダー相互の研修と努力によつて、

交通安全祈願祭

新たな決意を誓う 武田神社

県安協と県警関係者は一月八日、武田神社で交通安全の祈願を行いました。祈願には木村本部長、中村会長をはじめ、県安協役員、県警交通部幹部等七十人と、パトカー、白バイ、交通安全教育車「さちかせ号」が参列、おはらいを受



ことしさらに死者の減少をと決意を誓い合いました

山梨県交通安全協会会員のための災害共済のお奨め

万人は一人のために 一人は万人のために

※ 保険会社の職員が内容説明に伺います。

提供団体 山梨県交通安全協会

引受会社 協栄生命

甲府市丸の内三丁目20-3
TEL 0552 (22) 48364

交通安全協会について

交通安全協会というのは、どういう性格の団体で、どんな活動をしているのかと思う方もあるでしょう。そこで、交通安全協会について説明いたします。

交通安全協会とは
交通事故をなくそうという切望は、県民ひとしく切望しているところですが、それは世界の人の切望も同様です。

交通安全協会は、現在の財団法人山梨県交通安全協会となり、県下十五の地区交通安全協会と一体となって活動を続けております。しかし、交通安全運動をより活発に、そして効果的に推進してゆくためには、どうしても県民総ぐるみ体制をも

事業活動の

あらまし

交通安全協会は、春秋の交通安全運動ばかりでなく、年間を通じていろいろな事業活動を行なっています。毎年交通事故が減少傾向を示していますが、これも交通安全協会の安全教育や広報活動など、各種事業の成果といえましょう。

安全教育や 広報活動を展開

交通安全協会は、春秋の交通安全運動ばかりでなく、年間を通じていろいろな事業活動を行なっています。毎年交通事故が減少傾向を示していますが、これも交通安全協会の安全教育や広報活動など、各種事業の成果といえましょう。

- 交通安全協会は、春秋の交通安全運動、夏秋の交通安全運動、年末年始の交通安全運動、交通安全各種資料のあつせん、作成配付
- 交通安全教育用映画、その他交通安全教育用資料の貸出し
- 機関紙「安協ニュース」の発行
- 交通安全功労者および優良運転者の表彰
- 自転車の安全な乗り方教室の開催
- 交通安全子ども自転車大会の開催
- 高校生に対する二輪車安全運転講習会の開催
- 原付運転者に対する実技講習の実施



交通安全功労者並びに優良運転者等の表彰
交通安全協会の会員で交通安全に功労のあった方、常に模範的な安全運転をして永年無事故無違反の優良運転者、日ごろ交通安全に尽している地域の方や団体に、毎年一回交通安全表彰が受けられます。

きいろいろい羽根配り

交通安全協会では、毎年春秋の交通安全運動に毎回十数万本つきいろいろの意欲高揚を図っています。



自転車の安全な乗り方教室

自転車利用者の交通事故を防止するため、交通安全協会に「自転車安全教育推進委員会」を設け、自転車の安全な乗り方について指導を行なっております。



二輪車の安全な乗り方指導

- 1 高校生に対する二輪車安全運転講習会の実施
- 2 原付自転車運転免許合資格者に対する実技講習の実施
- 3 二輪車安全運転大会の開催
- 4 二輪車の指導にあたる指導員の資格認定と講習



運転者講習会等の開催

交通安全協会では、春秋の交通安全運動の期間中および交通安全法の改正等の際は、会員に安全運転や法令講習会を実施して講習を行なっています。



母と子の交通安全教室

子どもを交通事故から守るには、家庭で常に子どもに接しているお母さんが、まず交通安全ルールを身につけ、それを基礎にすることが、最も大切なことなのです。

老人の交通安全教室

お年寄りの交通事故をなくするために、老人クラブや公民館活動を通じて、信号の見方、道路の横断の方法等を指導しています。

山梨県交通安全協会経営

公認 山梨自動車学校

八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内

TEL 05528-5-0752